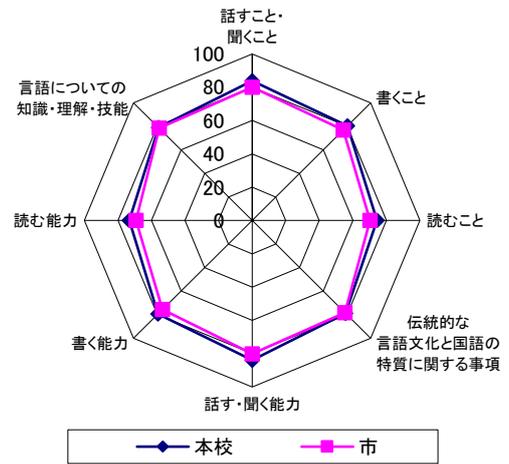


宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	83.9	80.1	77.9
	書くこと	80.4	76.8	65.3
	読むこと	74.4	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.8	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	83.9	80.1	77.9
	書く能力	79.5	75.6	64.2
	読む能力	73.2	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	79.0	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、市の平均を3.8%上回っている。 ○「意見の述べ方の共通する点を聞き取る」問題では、正答率が市の平均を0.8%上回っている。 ●「話の内容を正確に聞き取る」問題では、正答率は国の平均とほぼ同じである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動では、今後も、意見交換の時間を多く設け、意見を述べることに苦手意識を持つ生徒たちが、それを参考にしながら考えられるように工夫していく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、市の平均を3.6%上回っている。 ○「説明や具体例を加えて書く」問題では、市の平均よりも正答率が6.1%上回っている。 ●「3段落構成で文章を書く問題」では、正答率が市の平均より、3.4%上回ってはいるが、減点されている生徒も多い。(段落を分け、内容をまとめることが、不得意な生徒が多い。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文を書かせる際に、根拠の具体例を考えさせ、書き始める前に構成を組み立てるように指導する。(主張・根拠を明確にして書く練習を根気強く行う) ・実際に書いた文章を生徒同士で読み合い、いいところ、改善できるところを自分たちで考えさせるようにする。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、市の平均を4.1%上回っている。 ○文章の表現の特徴をとらえる問題では、正答率が市の平均を2.6%上回っている。 ●登場人物の心情をとらえる問題では、正答率は市の平均を3.5%近く上回っているものの、描写から心情を考えることが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文の読み取りに関しては、今後もワークシートなどを利用し、論の展開に注意させ、主張を的確に把握させる工夫を行っていく。 ・小説の読み取りに関しては、会話文や情景描写などを、細かく取り上げ、人物の心の動きに注目させるよう工夫する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、市の平均を0.5%上回っている。 ○用言の活用についての問題では、正答率が市の平均を3.6%上回っている。 ●類義語、対義語についての問題では、正答率は市の平均よりも6.9%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用言の活用を指導する際には、実際に自分が書いた文章の中で確認したり、新聞や小説の中の文を使って学習を進めていく。 ・類義語、対義語は、小テストを定期的に行うなどして、語彙力をつける工夫を行う。

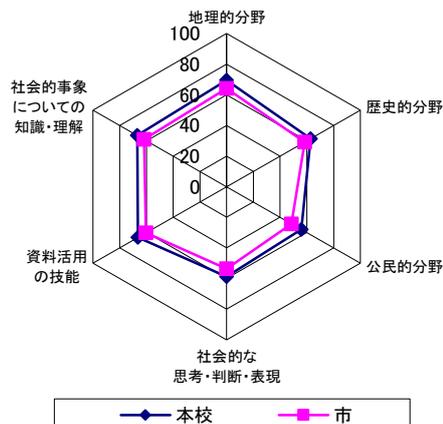
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	69.5	64.1	57.5
	歴史的分野	62.8	58.4	52.8
	公民的分野	55.8	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	58.7	53.6	47.5
	資料活用の技能	66.4	60.3	53.3
	社会的な思考・判断・表現	66.9	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

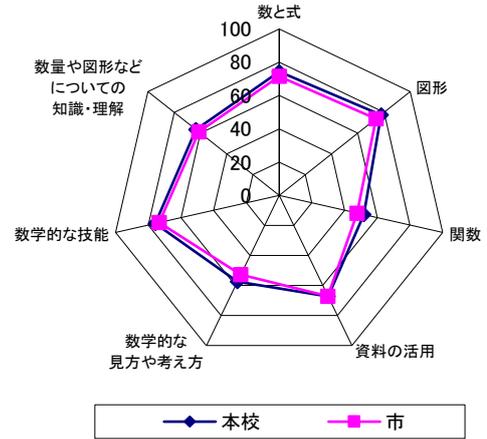
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○市の平均正答率を5.4%上回った。</p> <p>○世界の地域構成の内容は、正答率95.3%とほとんどの生徒が正答している。また農業生産の内容は市の平均を13.8%上回り、特に高い数値を示している。</p> <p>○記述の問題が市の平均と比べて高い数値を示している。</p> <p>●人口ピラミッドの読み取り、工業生産の変化の内容が市の平均を若干下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 記述の内容は、全般的に力があるが、資料の読み取りの明代については力が不十分である。そのために各単元の内容で基本となる資料を活用し、資料の読み取り問題を多く取り入れて問題を解く必要がある。 産業について世界・日本それぞれの視点から、農業・工業を大観し、また地域的特徴をとらえられるようにすることが必要である。
歴史的分野	<p>○市の平均正答率を4.4%上回った。</p> <p>○天保の改革の記述問題が市の平均を10.5%、また鎖国についての内容が8.4%上回り、特に高い数値を示している。</p> <p>○記述の問題が市の平均と比べて高い数値を示している。</p> <p>●都市の発展と株仲間の内容が唯一市の平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 政治史の内容や人物が関わる内容については解ける傾向にあるが、経済や文化など大衆の歴史に関わること社会全体をとらえる内容が不十分である。そのため歴史を大観する内容を多く取り入れたい。 記述の内容については、十分な力がついている生徒も多いため引き続き指導をしていきたい。
公民的分野	<p>○市の平均正答率を7.3%上回った。</p> <p>○公共の福祉の問題は市の平均を15.6%、新しい人権の記述問題は市の平均を11.1%上回り、特に高い数値を示している。</p> <p>●日本国憲法の基本原理の問題が、市の平均を6.0%下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人権の内容については、全般的に市の平均を大きく上回っている。人権のそれぞれの内容を整理するワークシートなどを活用したところが効果的だった。 日本国憲法の三大原則の内容が市の平均を下回ったことについては、基本的人権については解答率が高いため、今後は国民主権と平和主義の内容に焦点を当てて指導をしていきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	74.4	71.5	66.8
	図形	77.7	73.8	70.4
	関数	51.9	47.8	41.6
	資料の活用	67.3	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	57.3	52.8	45.8
	数学的な技能	75.7	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	63.5	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

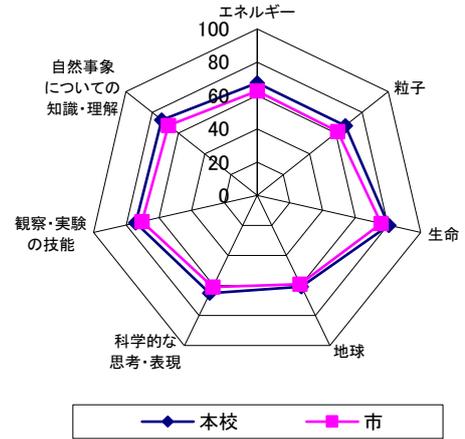
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○平均正答率は市の平均より2.9%上回っている。計算過程を大切にしながら、ていねいな計算処理や表現の指導の成果と考えられる。</p> <p>●設問別に見ると、平方根の大小について理解しているかを問う問題の正答率は市の平均より4.8%下回っている。また、分母を有理化し根号を含む式の加法ができるかを問う問題の正答率は2.5%下回っている。</p>	<p>・授業開始時に基礎計算問題プリントを準備して取り組んだり、授業時間内により多くの計算練習ができるようプリントを準備して取り組んできた成果が見られるが、計算の仕方や計算処理がまだ定着しない生徒も見られるため、引き続き基礎計算問題についてより早くより正確に処理できるよう練習・指導していく必要がある。また、平方根の計算処理について復習する必要がある。</p>
図形	<p>○平均正答率は市の平均より3.9%上回っており、正答率77.7%と領域別では最も高い正答率の領域である。設問別に見てもすべての設問に対する正答率が市の平均を上回っており、比較的定着していると考えられる。</p> <p>●証明の必要性を問う設問に対する正答率が59.1%、n角形の外角の和はつねに360°であることを理解しているかどうかを問う設問に対する正答率が60.1%となっており、他の設問の正答率と比較すると低い正答率である。</p>	<p>・作図や証明の仕方については丁寧な指導と生徒の取り組みの成果が見られるが、図形の角度を求める問題や証明問題演習の機会を増やし、さらに理解を深めさせる必要がある。</p>
関数	<p>○平均正答率は市の平均より4.1ポイント上回っている。設問別に見ると1次関数について、式とグラフを関連づけて理解しているかどうかを問う設問に対する正答率は69.4%と最も高い。</p> <p>●平均正答率は市の平均を上回っているが、正答率51.9%と領域別で最も低い正答率の領域である。x、yの変化の関係や関数と図形の融合問題など応用問題に対する理解不足が見られる。</p>	<p>・比例、一次関数、2乗に比例する関数の基本的な知識や理解力は身に付いているが、関数領域を苦手とする生徒も多く、さらに演習の機会を設け、苦手意識を無くすとともに応用力を身に付けさせる必要がある。</p>
資料の活用	<p>○平均正答率は市の平均とほとんど同じである。設問別に見ると度数分布で、中央値が含まれる階級がわかるかどうかを問う設問に対する正答率は79.8%と最も高い。</p> <p>●設問別に見ると度数分布表から、階級の相対度数を求めることができるかどうかを問う設問に対する正答率が53.4%と最も低く、相対度数の意味や求め方が定着していないことが分かる。</p>	<p>・相対度数や中央値（メジアン）、最頻値（モード）など、普段あまり目や耳にしない言葉も多く、定着が図られていないことが結果から読み取れるため、資料の活用に関する基本的な知識や理解を再確認する必要がある。</p>

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	67.6	62.7	57.6
	粒子	67.2	61.5	57.7
	生命	80.4	75.8	72.1
	地球	60.8	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	65.2	61.0	54.8
	観察・実験の技能	74.2	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	72.8	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

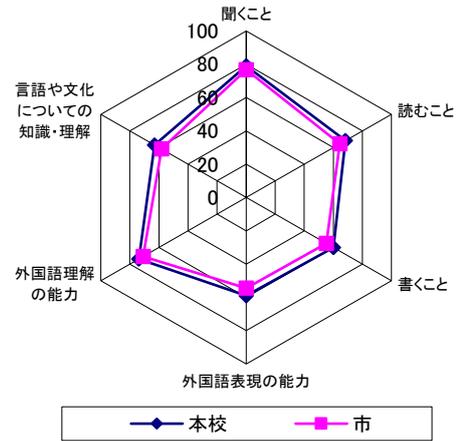
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー単元の本校正答率は市の平均を4.9%上回っている。 ○「流れる電流の大きさが予想できないときにつなぐ電流計の端子を指摘できる」では市の平均を9.0%上回っている。 ●「紙テープのはじめの部分を使用しない理由を指摘できる」は市の平均を0.5%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 記録タイマーの使い方やテープの処理の仕方を習熟させる。運動のようすを調べた記録テープを0.1秒分ごとに切り、グラフ用紙にきれいに貼り付けて、丁寧にまとめさせる。
粒子	<ul style="list-style-type: none"> ○粒子単元の本校正答率は市の平均を5.7%上回っている。 ○「電流が流れない水溶液を指摘できる」では市の平均を11.4%上回っている。 ●「密度の求め方を理解し、物質を同定できる」では市の平均を2.9%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 密度の定義と求め方について説明し、密度を計算させる。種類のわからない数種類の物質を用意して、それらの質量と体積はかり、誤差も考慮しながら物質の種類を正しく類推させる。
生命	<ul style="list-style-type: none"> ○生命単元の本校正答率は市の平均を4.6%上回っている。 ○「無性生殖について理解している」では市の平均を7.5%上回っている。 ●「節足動物に分類される動物を理解している」では全国の平均を3.4%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な昆虫を調べ、運動する際の節の動きなどを適切に記録させる。昆虫の観察結果などをもとに、節足動物に共通する特徴を見だし、具体的に説明させる。
地球	<ul style="list-style-type: none"> ○地球単元の本校正答率は市の平均を1.8%上回っている。 ○「停滞前線をつくる気団について理解している」では市の平均を5.6%上回っている。 ●「石灰岩の層を見分ける方法を理解している」では市の平均を2.9%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 柱状図から地層の広がりや同時代性を推測させる。粒の大きさ、かたさ、塩酸との反応などに注目して観察し、それぞれの堆積岩の特徴を比較しながら、スケッチや文章でまとめさせる。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	79.0	76.8	73.1
	読むこと	68.3	64.5	59.9
	書くこと	60.0	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	59.0	54.5	59.0
	外国語理解の能力	73.8	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	63.1	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」の校内正答率は、市の正答率を2.2%上回っている。 ○対話文の応答の問題では、市の正答率を9.6%上回っている。 ●英文の要点を聞き取る問題では、市の正答率を1.2%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ● 毎回の授業でリスニングを行い、聞かせる回数を増やす。特に、対話の中で、要点に注意しながら聞かせ、大切なところをしっかりと聞けるようにする。 ● All Englishの授業を行い、日常的に英語に親しませる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の校内正答率は、市の正答率を3.8%上回っている。 ○長文の読み取りの内容把握の問題では、市の正答率を7.9%上回っている。 ●語形の理解の問題では、全国の正答率を2.2%下回るものもあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単語の意味や文の構造などにも注意しながら読ませるようにする。 ● たくさんの長文読解問題に慣れる必要があるので、教科書以外の様々なジャンルの英文を読ませ、Q&AやTorFテストで大意をおさえるとともに、それにかかわる細かい読み取りができるようにする。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」の校内正答率は、市の正答率を4.7%上回っている。 ○5文以上のまとまった英文を書く問題では、市の正答率を4.5%上回っている。 ●並べ替えの問題では市の正答率を下回るものもあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 連語なども覚え、表現力を高める。 ● 自分の意見を英語で伝えられるよう実践的な場面を与えた上での書く活動を取り入れる。

宇都宮市立宮の原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化	・ねらい提示と振り返りを行う。	・「授業が分かる」の肯定割合が、全学年において8割を超えた。
・学業指導の充実	・チャイム前着席や態度の指導を行う。	・「開始時に着席している」、「忘れ物をしな」、「授業に集中している」等の肯定割合は、9割を超えた。
・家庭学習の習慣化	・課題の提出を徹底させる。	・「期限までに提出している」の肯定割合は、8割を超えているが、全学年とも市の割合をわずかに下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・現在の学力を維持させていくために、3つの重点的な取組を次年度も継続して指導をしていく。
- ・教科等横断的な視点で、学習の基礎となる資質・能力や諸問題に対応していく資質・野力の育成をしていく。
- ・家庭での学習について課題が見られたので、繰り返し家庭学習の目的や内容について根気強く指導をしていく。